

## 第2回 新宿区立幼稚園検討協議会 議事概要

日 時：令和8年7月7日（火）15：00～16：00

場 所：新宿区役所本庁舎5階 大会議室

出席者：委員10名、事務局2名

欠席者：委員2名

傍聴者：1名

凡 例；◎司会進行、○委員、■事務局

### 【議事】

- 1 第1回新宿区立幼稚園検討協議会の振り返り
- 2 区立幼稚園に保護者が不安なく応募できる取り組みについて
- 3 入園承認日の前倒しについて
- 4 その他

◎議題1、第1回新宿区立幼稚園検討協議会の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。

■第1回新宿区立幼稚園検討協議会での議事概要について説明。

第1回検討協議会では、本検討協議会の設置趣旨を確認し、令和9年度の園児募集に関する事項を優先的に検討することを踏まえ、区立幼稚園への入園を希望する幼児の受入れに関する方策について協議を行った。区立幼稚園の現状として、区立幼稚園を取り巻く社会状況の変化や園児数の推移、園児の受入状況などを確認した。また、区立幼稚園の役割として、「全ての子どもに幼児教育の機会を保障すること」、「子育て支援の拠点としての役割」、「小学校教育との円滑な接続」が必要であるとの認識を共有した。さらに、外国にルーツのある幼児や支援を必要とする幼児を受け入れ、お互いを認め合いながら学び成長できる環境づくりを進めていることを確認した。架け橋プログラムでは、小学校との連携により、幼児期から小学校への円滑な接続を図る取組が進められていることを確認した。集団保育については、少人数では一人ひとりに目が行き届く一方で、子ども同士の学び合いや活動内容に限界があること、一定規模の集団では多様な育ちや主体的な学びにつながる経験が得られることが共有された。また、一定規模の集団による保育が幼児教育に必要であるとの認識を共有した。区立幼稚園の新入園児募集については、保護者から寄せられた不安や意見を踏まえ、令和9年度の募集に向けた検討を行った。特に入園承認日の前倒しについては、第2回検討協議会において保護者の不安を解消するための方策を議論することを確認した。

◎前回の検討協議会では、区立幼稚園は全ての幼児に幼児教育の機会を保障する役割を担っており、今後も区民にとって必要な施設であるとの認識を共有した。また、集団保育の必要性や、区立幼稚園への応募に対する保護者の不安について議論を深めることができた。

と感じている。この間、幼稚園を訪問した委員もいることから、感想等についてうかがいたい。

○6月16日に幼稚園を訪問し、改めて区立幼稚園が果たしている役割の大きさと存在意義を実感した。幼児教育では、環境が子どもを育てることが重要だと感じており、子どもたちは植物や生き物、身近な素材、人との関わりの中で、自ら疑問を持ち、学びを深めていた。また、その気付きが教員の学びにもつながり、展示や保護者とのコミュニケーションを通して更なる学びへと発展していることに感銘を受けた。実物教育や情操教育を大切に、五感を通した学びが日常の保育に根付いていること、環境への関心や思いやりを育む教育が行われていることも印象的だった。さらに、集団保育においては、同年齢・異年齢の子どもや様々な背景を持つ子どもとの関わりを通して社会性や協調性が育まれるため、適切な集団規模を維持することが重要だと感じた。また、区立幼稚園は子どもの成長を支えるだけではなく、保護者を支え、地域で子どもを育てる拠点としての役割も果たしていると感じた。

◎訪問先の幼稚園の園長から感想を伺いたい。

○短時間の参観ではあったが、日頃の教育活動について理解してもらえたことを嬉しく思う。また、開園65周年記念事業を通じて、地域に大切にされてきた幼稚園であることを子どもや保護者と共有する機会となった。さらに、園庭に現れたオニヤンマをきっかけに学びが広がるなど、幼稚園では子どもの「なぜ」に柔軟に対応しながら教育活動を展開している。幼児期は環境と十分にに関わりながら学ぶことができる大切な時期であり、引き続きより良い教育環境づくりに努めていきたいと思っている。

○区立幼稚園における幼児教育への思いや取組を受け止めたいと思っている。

◎次に、議題2、区立幼稚園に保護者が不安なく応募できる取組について、前回の協議会では、学級編制の見通しが立たないことや、今後区立幼稚園がなくなるのではないかといった保護者の不安について議論した。こうした点について、教育委員会の考えがあれば説明をお願いしたい。

○区立幼稚園は今後も必要な施設であると考えている。

区立幼稚園には、「子育て支援の拠点としての役割」、「配慮を必要とする幼児の受入れ」、「小学校教育との円滑な接続」といった役割がある。また、家庭の状況に関わらず、全ての子どもに平等に幼児教育の機会を提供できることや、公平性・公共性を持った教育を行っていることが区立幼稚園の特徴である。さらに、発達に課題のある子どもや外国籍の子どもなど、多様な子どもを支援する体制が整っている。区立幼稚園は、全ての子どもの成長を支えるために必要な施設であり、令和9年度の園児募集に向けても、区立幼稚園を残していくというメッセージを発信していきたいと考えている。

○外国籍や外国にルーツを持つ子どもが多い新宿区において、区立幼稚園は多様性を認め合い、共に成長する場として重要な役割を果たしている。また、現在インクルーシブ教育と呼ばれている取組を、新宿区立幼稚園では以前から実践してきたと感じている。区立幼稚園では、教員が一人ひとりの子どもに寄り添いながら教育を行っており、研究や研修を重ねながら教育の質を高めている。さらに、その成果は保育園や認定こども園とも共有されており、新宿区の幼児教育を支える中核的な役割を担っている。そのため、区立幼稚園は今後も残していくべきだと考える。

○現状として区立幼稚園を取り巻く環境が厳しいことは理解しているが、それでも区立幼稚園を希望する保護者や子どものために区として最大限努力する必要があると思っている。学級編制の見通しが分からず不安を抱える保護者に対し、その不安を解消する取組を進めるべきだと感じている。また、区立幼稚園を守っていくという姿勢を示すことが重要だと思っている。

○区立幼稚園を残していくのであれば、幼児教育にふさわしい集団規模を維持することが重要だと思っている。少人数すぎる学級では、子ども同士の関わりや主体的な活動が十分に行えない場合もある。前回の協議会でも確認したとおり、適切な園児数を確保した上で学級編制を行う必要があると感じている。

○適切な集団規模を前提としながら、試行的な取組として学級編制を確実に行う園を設定することは有効ではないか。そうした園があることを示せば、区立幼稚園を残していくという前向きなメッセージになると考えている。一方で、何園程度設定するのが適切かについては慎重な検討が必要だと思っている。

○保護者にとって、確実に学級編制が行われる園があることは安心材料になる。全ての区立幼稚園を維持することは難しい面もあるが、試行的な取組として、令和9年度については学級編制を確実に行う園を2園程度設定してはどうか。その際には、応募状況だけでなく、地域的なバランスや交通利便性なども考慮する必要がある。

◎保護者の不安解消と区立幼稚園を今後も選択できる環境を示すという観点から議論を整理した。また、少人数学級になりすぎることへの懸念や、適切な集団規模を確保する必要性を踏まえると、令和9年度については学級編制を確実に行う園を試行的に2園程度設定するという方向性に委員の意見がおおむね集約されたと思う。このような認識でよろしいか。

○異議なし。

◎令和9年度に向けた試行的な取組として、学級編制を確実に行う園を2園程度設定する方向性について了承を得た。

◎次に、議題3、入園承認日の前倒しについて、事務局から説明をお願いします。

■園児募集のスケジュールについて説明

10月15日に募集案内を公表し、11月上旬に入園申込みの一斉受付を行い、応募状況の公表後に健康診断や入園面接を実施している。また、園生活に不安のある幼児については観察会を実施し、支援の必要性について確認している。健康診断では既往歴やアレルギー等の確認を行い、入園面接では園生活に向けた相談を行っている。

○健康診断や入園面接の終了後、支援員の配置が必要な幼児については観察会を実施し、区全体で支援員配置の調整を行っている。現在の1月15日は承認書を交付する日として位置付けており、承認後は保護者会や入園に向けた説明会、園服の採寸、物品購入等を行っている状況である。そのため、承認日が12月に前倒しされた場合でも、入園準備に必要な期間は確保できることから、大きな支障はないと思っている。

◎現場としては一定の準備期間が確保されれば、承認日を前倒しした場合でも対応は可能であるとの説明があったが、これに対して意見はあるか。

○入園承認日を前倒しした場合に、保護者や子どもへの影響が生じないか確認したい。

○子どもや保護者にとっては、入園する園が早く決定することのメリットの方が大きいと思う。幼稚園側の準備は前倒しになるが、事前に日程や対応を整理しておけば大きな負担にはならない。保護者にとっては入園先が決まることによる安心感が非常に大きいと感じる。

○保護者の立場からすると、入園先が早く決まる安心感は非常に大きいと思う。また、他区における入園承認はどのように行っているのか。参考に伺いたい。

■複数の区立幼稚園を設置している区では、10月下旬から11月上旬に募集を行い、募集締切直後に学級編制基準を満たしているか判断している区が多い。また、多くの区が10月下旬から11月中旬頃までに学級編制や入園承認の判断を行っており、区によっては、学級編制基準を継続して下回った場合に募集停止や閉園を行う規定を設けている。一方、新宿区では1月15日まで応募受付を継続し、保護者からの相談対応などを行っている。

○保護者や現場の状況を踏まえると、1か月程度の前倒しは可能ではないか。区として対応可能か確認したい。

■1か月程度の前倒しについては、事務的な整理は必要となるものの、区民への大きな影響はないと認識している。そのため、1か月程度前倒しできるよう取り組んでいきたいと考えている。

○認定こども園の1号認定における承認時期も12月下旬頃であり、1か月程度前倒しした場合でも問題はないと理解している。

◎保育園や他の教育・保育施設と比較すると、現在の区立幼稚園は応募から承認までの期間が長く、不安定な状態が続いていると感じている。委員や園長からの意見を踏まえると、人的な調整は必要であるものの、保護者の不安軽減のため入園承認日を1か月程度前倒しすることが望ましいとの認識である。本協議会として、入園承認日について1か月程度の前倒しを目指す方向性で整理してよいか。

○異議なし。

◎本日の議論を踏まえ、次の3点について合意が得られた。

- ・幼稚園教育要領に基づく教育活動を実施するためには集団保育が必要であり、学級編制基準は現行の8人とする。

- ・園児数が減少する中でも区立幼稚園を選択できる環境を確保するため、令和9年度募集において試行的に学級編制を確実に行う園を2園程度設定すること。

- ・保護者の不安軽減を図るため、学級編制決定及び入園承認の時期を1か月程度前倒しすること。

次回の検討協議会では、これら3点を令和9年度新入園児募集に係る検討結果として取りまとめるとともに、区立幼稚園のあり方について意見交換を行いたい。

○異議なし。

#### 議題4 その他

##### ■第3回新宿区立幼稚園検討協議会の日程について説明

第3回は令和8年7月17日午後2時30分から教育センター中研修室で開催予定。